



カバー写真について:

ヴァルゲム・グランデ・パウリスタ・ロータリークラブ(ブラジル)は、新型コロナウイルスの世界的流行中に設立された300以上のロータリークラブの一つです。クラブ例会はバーチャル形式で行われ、地域社会の緊要なニーズに応える奉仕プロジェクトが実施されました。食料の問題に取り組み、マスク着用の認識を高めるため、保存食を寄贈した地元市民にクラブロゴの入ったマスクを配りました。ロータリークラブは、キロンボラとハイチの家族に200キログラム以上の食料を提供しました。



ROTARY INTERNATIONAL®
THE ROTARY FOUNDATION

ROTARY.ORG



2019-20年度 年次報告

国際ロータリー
ロータリー財団



ロータリーは、世界中のさまざまなパートナーと協力して地域社会を変え、より大きなインパクトをもたらし、重要な分野における活動を広め、世界的なつながりを築いています。

ロータリーのパートナー

ポリオ根絶活動のパートナー

国際ロータリーは、以下の組織とともに、世界ポリオ根絶推進活動 (GPEI) で中心的役割を担っています。

- 世界保健機関 (WHO)
- UNICEF (国連児童基金)
- 米国疾病対策センター (CDC)
- ビル&メリンダ・ゲイツ財団
- Gaviワクチンアライアンス
- ドナー国政府

プロジェクトのパートナー

- シェルターボックス

奉仕のパートナー

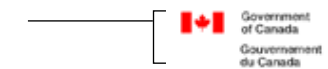
- アショカ
- ハビタット・フォー・ヒューマニティー
- 国境なき調停者団
- 米国平和部隊

戦略パートナー

- 教育のためのグローバルパートナーシップ
- 経済平和研究所
- 米国国際開発庁

サポーター

- Blane Foundation
- DollarDays
- Fondation Coup de Coeur
- Giantmicrobes
- グローバル連携省 (カナダ)
- Goodeve Foundation
- Modern Education Trust



国連

- 国際ロータリーは、世界の15の首都で、国連機関や国際組織と協力する代表者を任命しています。

2019-20年度国際ロータリー理事会

会長

マーク・ダニエル・マローニー (米国)

会長エレクト

ホルガー・クナーク (ドイツ)

副会長

アキム・オラインカ・ババロラ (ナイジェリア)

財務長

デイビッド D. ストーバル (米国)

理事

フランチェスコ・アレツツォ (イタリア)

トニー (ジェームス・アンソニー) ブラック (スコットランド)

ジェフリー・カドレット (米国)

マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ (ブラジル)

ローレンス A. ディミット (米国)

ラファエル M. ガルシアIII (フィリピン)

ヤン・ルーカス・ケット (オランダ)

キュン・キム (韓国)

フロイド A. ランシア (米国)

三木 明 (日本)

バラート S. パンディア (インド)

クマール・サンヴィ (インド)

ジョリータ・ソラーリ (米国)

ステファニー A. アーチック (米国)

ピョートル・ウィナンザック (ポーランド)

事務総長

ジョン・ヒューコ (ウクライナ)

2019-20年度ロータリー財団管理委員会

管理委員長

ゲイリー C.K. ホァン (台湾)

管理委員長エレクト

K.R. ラビンドラン (スリランカ)

副委員長

ケネス M. シュバート・ジュニア (米国)

管理委員

ホルヘ・アウフランク (グアテマラ)

ブレンダ・クレシー (米国)

イポリト S. フェレイラ (ブラジル)

ジョン F. ジャーム (米国)

パー・ホイエン (デンマーク)

ジェニファー E. ジョーンズ (カナダ)

北 清治 (日本)

ジュリア D. フェルプス (米国)

イアン H.S. ライズリー (オーストラリア)

グラム A. バハンバティ (インド)

マイケル F. ウェブ (英国)

サンクー・ユン (韓国)

事務総長

ジョン・ヒューコ (ウクライナ)



30% 消費者使用後の再生紙を使用

FSC®認定

Rainforest Alliance Certified™

塩素無使用

バイオガスエネルギー

大豆原料インク使用

今こそ世界は、この素晴らしい団体の特徴を成す価値観、友情、革新、そして参加の機会を必要としています。

リーダーからのメッセージ



私たちは厳しい時代に生きています。お互いに支えることができない場合、どれほど困難になるかを想像してみましょう。心を強く豊かにするグローバルな友情、奉仕プロジェクト、つながりがなかったら、果たしてどうなるかを想像してみましょう。ロータリーがなければ、私たちの生活に同じような活力と目的は見出せなかったでしょう。ロータリーを通じて、世界中そして自分自身の中で変化が生まれることを私たちは知っています。私たちが共につながり、行動するのはそのためです。

この困難な時に、ロータリーは史上初のバーチャル国際大会を開催し、1週間にわたるプログラムの表示数は183,000人となり、大会登録者は過去最大の60,528人、分科会の参加者も12,048人に上りました。またロータリー財団は、新型コロナウイルスの世界的流行という大きな障害を乗り越え、目標額を上回る4億800万ドル以上のファンドレイジングに成功しました。

ロータリーの戦略的ロードマップである行動計画では、「より大きなインパクトをもたらす」「参加者の基盤を広げる」「参加者の積極的なかわりを促す」「適応力を高める」という優先事項が掲げられており、これらに沿って歩み始めることができたことを誇りに思います。今こそ世界は、この素晴らしい団体の特徴を成す価値観、友情、革新、そして参加の機会を必要としています。ロータリーを人生の重要な一部とし、世界中のロータリー会員や参加者とのつながりを築いていただいていることに心より感謝いたします。

心を込めて

2019-20年度
国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー

2019-20年度
ロータリー財団管理委員長
ゲイリー C.K. ホアン

ロータリーでは、さまざまな背景や経験をもつ人びとが集まることで、より良い奉仕を実現し、人びとにインスピレーションを与えることができます。

活動するロータリー

世界中のロータリアンとローターアクターが一丸となって、より良い地域づくりに取り組んでいます。私たちは手を取り合って、平和を推進し、安全な水と衛生のために活動し、教育を支援し、疾病と闘い、母子の健康を守り、地域経済を成長させ、環境を保護し、災害救援に取り組み、ポリオ根絶に力を尽くします。これらの活動には、コミットメント、知識、リーダーシップ、そして何よりも行動する決意が必要です。

行動計画は、ロータリーのビジョンを強化し、未来を描き、成功のための戦略となり、私たちに導くものです。この計画では、「より大きなインパクトをもたらす」「参加者の基盤を広げる」「参加者の積極的なかわりを促す」「適応力を高める」という4つの優先事項が掲げられています。これらを土台として、私たちは奉仕プロジェクトや地域社会での活動に取り組み、人間的・職業的な成長を遂げることができます。

ロータリーは、つながり、協力し、変化を生み出す力です。数十年にわたるポリオ根絶活動からも分かるように、ロータリーの活動は計画的かつ着実に、長期的な成果を生み出すものです。また、災害時に食料や簡易シェルターを提供したり、新型コロナウイルスの流行時に防護具を医療従事者に提供したりするなど、緊急時のニーズにも対応しています。

ロータリーでは、多くのグループ、地域社会、都市、国、文化にまたがる末永い友情を築くことができます。また、さまざまな背景や経験をもつ人びとが集まることで、より良い奉仕を実現し、人びとにインスピレーションを与えることができます。

ロータリーは、奉仕プロジェクトやその他の活動を行うために必要な手段をクラブに提供することで、リーダー育成と人道的活動の支援に力を入れています。ロータリーの会員とプログラム参加者は、職業スキルを発展させる機会を利用することもできます。その例として、ロータリーはトーストマスターズとの提携によるコースを提供しています。

私たちは将来を見据え、データに基づいてロータリーの活動を導きます。奉仕活動のデータを記録することで、インパクトを明確にとらえ、成功例をベストプラクティスとしてさらなる発展につなげることができます。

サンフランシスコの中華街にある救済施設Cameron Houseで、食料とマスクを配布するサンフランシスコ・チャイナタウン・ロータリークラブの会員





ロータリアンは結果を出すことで知られています。私たちの活動は、何世代にもわたる人びとの人生に変化をもたらします。

変化をもたらす

ロータリアンは結果を出すことで知られています。私たちの活動は、何十億人もの子どもをポリオから守る活動のように、何世代にもわたる人びとの人生に変化をもたらします。世界ポリオ根絶推進活動のパートナーシップと、莫大な数の会員によるファンドレイジングとアドボカシーの活動がなかったら、1900万人近くが身体まひを患い、150万人が命を落としていたとされます。

2019年8月、アフリカ最後のポリオ常在国であったナイジェリアで、野生型ポリオの無発症期間が3年間を経過しました。これはロータリー会員、保健従事者、パートナー、政府による弛みない活動があったから実現されたことです。ナイジェリアは世界保健機関が定めるアフリカ地域で最後のポリオ常在国であり、この達成により、2020年8月にアフリカ地域全体における野生型ポリオ根絶の認定へと至りました。ナイジェリアにおける野生型ポリオの根絶宣言、そして常在国リストからの除外は、ナイジェリアとアフリカ地域の公共保健における快挙であり、全世界でのポリオ根絶に向けた大きな一歩です。

ポリオ根絶活動は、多くの遺産を残します。ポリオ根絶活動のインフラは、多くの発展途上国における新型コロナウイルスの対応にも活用され、医療やワクチン、マラリア予防用の蚊帳、安全な水へのアクセス、手洗い用石鹸の提供など、ほかの医療活動において重要な役割を果たしています。

疾病との闘いは、ロータリー重点分野の一つに過ぎません。ロータリアンとローターアクターは、教育支援、地域経済の成長、母子の健康、平和の促進、水と衛生にも力を注いできました。

ロータリーはこれまで長年にわたって環境維持活動を支援しており、過去5年間に既存の重点分野を通じて1800万ドルのグローバル補助金を提供してきました。会員の間で環境保全に対する関心が高まっていることから、ロータリー財団管理委員会と国際ロータリー理事会は、環境の保護という新たな重点分野を全会一致で承認しました。

カルタゴ（コスタリカ）とデントン（米国テキサス州）のロータリークラブ会員は、ロータリー財団のグローバル補助金を活用し、国際非営利団体CATIEと協力してエコツーリズムの協同組合をコスタリカに設立。地域密着型の観光事業の成長に大きく貢献しました。エブリン・ガルシア・フエンテスさんご家族は、蝶の保護区を管理し、組合活動の一部となる輸出向けに蝶を飼育しています。

ルワンダ初の公共図書館

1994年のルワンダ大虐殺の後、キガリ・ヴィロンガ・ロータリークラブは、国の平和と和解、安定と安全保障、経済成長を支援する方法を模索しました。クラブ会員は、識字と情報へのアクセスが鍵となると考え、2000年、ルワンダ初の公共図書館を建てることを決めました。

当時、国内では本が手に入りやすく、新しいことを学ぶための手段となるテクノロジー機器へのアクセスも限られていました。10年以上かかりましたが、ロータリー財団の補助金と官民両方からの支援を受け、2012年にキガリ公共図書館が開館。現在では賑やかな首都の主要施設となっており、3階建ての館内には図書19,000冊、さらに30,000冊のデジタル図書が収蔵されています。

学生にとっては宿題をする場所となります。子どもたちにとっては、親がインターネットカフェを使用する間の遊び場となります。会議室ではさまざまなグループが会合を開くことができます。ここは自由と平和の、市民に開かれた場所。今日に至るルワンダの発展を物語る場所です。



カルタゴ・ロータリークラブ (コスタリカ) は、デントン・ロータリークラブ (米国テキサス州) と協力してグローバル補助金プロジェクトを実施し、観光協同組合を立ち上げるための支援を行いました。この補助金では、現地の熱帯雨林や滝、そして現地の伝統的な生活様式を人びとに体験してもらう観光事業を立ち上げた女性たちを支援しています。事業者は地元の起業家と協力して、農場見学や料理教室を通じて地元伝統を紹介しています。

ツアーグループを受け入れ、会合スペースを提供するため、テキサス州のロータリアンとインターアクターは、コスタリカのロータリアン、パートナー、

地元ボランティアと協力して、高速無線インターネットを完備したエコロッジを建設しました。

組合にかかわった女性の多くは、起業家として成功することを切望するシングルマザーでした。彼女たちは、補助金を使用したワークショップを通じて、領収書帳の使い方、価格設定方法、マーケティングなどのビジネス研修を受けました。

このプロジェクトによって雇用が創出され、より安定した経済を創出することで地域全体に利益をもたらしました。



自然と共に地域社会を育てる

20世紀後半までモレホネス (コスタリカ) の町はコーヒーとサトウキビの栽培が盛んな地域でした。しかし、物価が下落し始めると、人口の半数が町を離れ、別の場所での新しい生活を探し求めるようになりました。「地域密着型の観光業」というアイデアが地元の起業家の間で根付いたのもこの時期でした。しかし、彼らは援助を必要としていました。

補助金

ロータリー財団は、ロータリー会員が変革的な奉仕プロジェクトを実現するのを支援します。

歴史上はじめて
補助金が3億
米ドル以上に

2019-20年度、ロータリー財団による補助金授与額が初めて3億ドルを超えました。総額3億700万ドルの補助金は、財団の戦略的目標に向けた前進を促し、ロータリアンによるさらなる奉仕を可能にしました。

新型コロナウイルスの流行は、世界中の地域社会に前例のない課題を突きつけました。支援が必要なとき、ロータリーはそれに対応します。6月30日までに、財団は、管理委員会と理事会が寛大な資金提供を認めたことにより、新型コロナウイルス関連プロジェクトのための資金800万ドル近くを災害救援補助金を通じて授与しました。また、新型コロナウイルス対応支援のためのグローバル補助金1400万ドル以上も授与しました。

教育の支援：113
授与総額：780万ドル

地域経済の発展：170
授与総額：1190万ドル

疾病との闘い：729
授与総額：5940万ドル

母子の健康：101
授与総額：890万ドル

平和の推進：57
授与総額：270万ドル

水と衛生：189
授与総額：1530万ドル

重点分野 グローバル補助金*

ポリオプラス補助金
の授与総額
1億5180万米ドル

(ポリオプラス・パートナー補助金を含む)

地区補助金の数：490
授与総額：3360万ドル

災害救援補助金の数：339
授与総額：840万ドル

グローバル補助金の数：1,359
授与総額：9560万ドル

ロータリー会員は、財団補助金による奉仕、奨学金、研修を通じて、大きなインパクトをもたらすことができます。

グローバル補助金では、クラブが力を合わせて、持続可能で大きなインパクトを生む国際奉仕プロジェクトを実施しています。マチャラ・モデルノ・ロータリークラブ（エクアドル）は、シカゴ・ロータリークラブ（米国イリノイ州）と協力し、アンデス山脈の丘陵地帯で荒廃した河川流域を復元するグローバル補助金プロジェクトを実施しました。ロータリアンは、地元のリーダーや住民と協議することで、陸地、水域、居住区域が互いに作用する現状を学び、水質と水供給を改善するプロジェクトを立案しました。

小規模で短期的なプロジェクトで効果的に地域社会を支援できる場合は、地区補助金で資金を調達できます。ジェフリーズベイ・ロータリークラブ（南アフリカ）は、地区補助金を活用して地元の母子クリニックにジャングルジムを設置しました。

ロータリーの災害救援補助金は、自然災害からの復興を支援する緊急資金を提供します。アルバニアで巨大な地震が発生したとき、地元のクラブは災害救援補助金を使って、家を失った人びとに食糧と衛生用品を配りました。

ロータリーのポリオプラス基金は、ポリオ常在国とリスクの高い国々におけるポリオ根絶活動に資金を提供します。これに加え、ポリオプラスパートナー補助金は、ロータリー会員が提唱する緊急のポリオ関連プロジェクトを支援します。

地域社会を反映したクラブが実現したとき、ロータリーの力は最大になります。

共に前進する

今年、新型コロナウイルスの流行の最中でも、世界各地で320以上のロータリークラブが新たに加盟しました。これらのクラブは、人、団体、政府機関のつながりと文化的な架け橋を築き、地域社会の発展を阻む課題に取り組むグローバルネットワークの一員となりました。私たちは共に、平和、正義、平等な世界の実現に向けて前進します。

皆で参加し、共に行動しましょう。そのための最たる機会は、毎年10月24日の「世界ポリオデー」です。この日、ロータリアン、ローターアクター、パートナー団体、政府、その他多くの支援者が、世界中でポリオ根絶に対する認識向上に取り組めます。2019年には、世界ポリオデーにちなんで136カ国で5,900件以上のイベントが開催され、過去最高数となりました。ソーシャルメディアでも、480万件のコメント、シェア、リツイートが行われました。世界ポリオデーは、ポリオ根絶活動について学ぶだけでなく、歴史上最も野心的な公衆衛生イニシアチブの一つに参加する機会です。

2020年1月、ロータリーとビル&メリンダ・ゲイツ財団は、ファンドレイジングのための長年にわたるパートナーシップを更新しました。ロータリーは3年間、毎年5000万ドルの寄付を集めることに注力します。この寄付金にはゲイツ財団から2倍額が上乘せられるため、合計4億5000万ドルになります。

もう一つの最優先事項は、会員基盤の成長と多様化を図り、地域社会を反映した会員基盤を築くことです。このためロータリーでは、さまざまな経験と奉仕の機会を提供する新しい種類のクラブの創出にも力を入れています。週一度の昼食例会が理想的だと感じる会員がいる一方で、ほかの会員にとっては費用や時間が負担となる場合があります。柔軟なクラブを作っていくことによって、より多くの方がロータリーを経験することができます。

すべての会員と参加者に、多様かつ公平で、開放的なクラブ体験を提供することが不可欠です。ロータリーでは、あらゆる年齢、民族、人種、肌の色、能力、宗教、社会経済的地位、文化、性別、性的指向、性自認の人を歓迎します。地域社会を反映したクラブが実現したとき、ロータリーの力は最大になります。

リティーシュ・クマールさんは、シャージャハンプル（インド、ウッタルプラデシュ州）の地区でワクチンの保管を担当しています。氷で覆われた冷蔵庫に保管されているポリオワクチンを監視し、予防接種キャンペーンで医療従事者が使用できるよう準備しています。



タンザニアで新たに結成された5つのクラブには一つのEクラブと地理的に分かれた4つのクラブが含まれ、より多くの人に参加できるよう食事を伴わない夕方例会を開いています。クラブでまだ反映されていないグループの人を歓迎し、参加を奨励しているこれら5つのクラブでは、女性が初代クラブ会長となりました。

また、セントジョセフ大学(タンザニア)でローターアクトクラブを、地元の高校でインターアクトク

ラブを、そしてインフラ整備を必要とする貧困地域でロータリー地域社会共同隊を立ち上げ、若者や専門家による参加を促しました。

これらのクラブは既に変化をもたらしており、一つのクラブは、小児がんの医療施設に物資を寄贈し、別のクラブは幼稚園の教室改装や地元小学校での浄水フィルター設置に取り組んでいます。



革新的アプローチ

ダルエスサラーム・オイスターベイ・ロータリークラブ(タンザニア)では、会員の出身地が約20カ国におよび、地元の多様性が反映されています。会員を増やし、参加の基盤を広げるため、クラブは5つの新クラブのスポンサーとなりました。各クラブでは、新会員を魅了するために異なる経験を提供しています。

奉仕のパートナー

世界保健機関(WHO)が新型コロナウイルスの世界的流行を宣言した際、第9212地区(エリトリア、エチオピア、ケニア、南スーダン)全域のクラブが対応チームを結成し、手洗い場を各地に設置しました。また、失業した家族に食料を提供し、個人用防護具のための資金を調達。その際に地元のパートナーも重要な支援を行いました。

地区による対応チームの結成後20日以内に、エチオピアとケニアでのファンドレイジング活動で21,000ドル以上が集まりました。ケニアのPrime Bankは、集まった寄付と同額を上乗せすることに同意。チームはその資金を使って水タンク100基を購入し、業者を説得してさらに100基を寄贈してもらいました。

ロータリー地域社会共同隊(ロータリー会員と協力して奉仕プロジェクトに取り組むグループ)は、効果的な手洗いの方法について研修を実施し、さまざまなデータを収集しています。地元のニーズに関するデータを集めたクラブは、砂糖、トウモロコシ、米、レンズ豆、塩、石鹼を家庭に配布しました。また、ケニアの都市スラム街の女子や女性のために無償サービス、アドボカシー、教育を提供している草の根の団体Shofcoと提携し、駅でのモニタリングを行いました。

コロナ禍におけるロータリアンの取り組みは、協力に関心を抱く銀行や保険業者などの組織から注目を集めました。



寄付する理由



フランク・イー、ナンシー・イー

中国

アーチ・クラフ・ソサエティ (管理委員会サークル)

過去何年にもわたって補助金を申請してきたので、ロータリーがもたらすインパクトについて良く知っています。私たちの寄付がコロナウイルスへの対応、平和構築、教育、環境のために生かされると知り嬉しく思います。



ヤン・ジュン・ユン、ス・ヤン・キム

韓国

アーチ・クラフ・ソサエティ (管理委員会サークル)

寄付において私たちが模範を示せば、より多くの方が寄付をするようになり、最初は小さな灯でも、いずれは大きな寄付につながっていくと確信しています。多くの人たちのための奇跡を起こせるよう、私たちは今、寄付をするのです。



柯錫齡、陳初媛

香港

アーチ・クラフ・ソサエティ (管理委員会サークル)

ロータリー財団を支援できることを誇りに感じ、感謝しています。私たちは共に、世界をより良い場所に変え、人びとのニーズに応えることに貢献しているのです。



丸尾研一・正子

日本

アーチ・クラフ・ソサエティ (管理委員長サークル)

ロータリー入会当初、寄付するという考えはありませんでした。しかし、いろいろな経験を積み、多くの方からのお話を聞き、感動してときには涙を流し、そうして寄付への意欲が高まりました。寄付した瞬間、人の役に立てた喜びと幸せな気持ちに満たされ、ポジティブなエネルギーに包まれた感じがしました。



フレデリック・リン、ジェーン・リン

台湾

アーチ・クラフ・ソサエティ (管理委員会サークル)

私の父は、自分の生活が大変なときでさえ、人びとを支援していました。素晴らしい活動を行うロータリー財団への寄付に対して、父が背中を押してくれたように感じています。

2019-20年度の新規およびレベルアップしたAKS会員、または以前に掲載されなかった会員（敬称略）

アーチ・クランフ・ソサエティ

管理委員長プラチナサークル
(5,000,000~9,999,999ドルのご寄付)
Jean Paul Jacob (米国)

管理委員会プラチナサークル
(2,500,000~4,999,999ドルのご寄付)
匿名 (1)
Chantal and Tommy Bagwell (米ドル)

財団サークル

(1,000,000~2,499,999ドルのご寄付)
福井正典・初美 (日本)
William E. Mayhood and Mabel Mayhood (米国)
Carole Margaret Milne (英国)
Carl and Lina Treleaven (米国)

管理委員長サークル

(500,000~999,999ドルのご寄付)
匿名 (1)
Plastic Ray-Ching Chang and Linda Shu-Chen Chang (台湾)
Rubber Chang and Kiko Lin (台湾)
Sheng Chien, Chang (Mirror) and Hsiang Chuan, Chang (Yuki) (台湾)
Amy Su-Mei Chang Chen and Chiu-Ching Chang (台湾)
Ron-Chu Chen and Hung-Yun Chen (台湾)
Yusen (Ethan) Chen and Hong-Ling (Sandy) Lai (台湾)

Ron and Glenys Geary (オーストラリア)
Barton Goldenberg and Marina Garzolini-Goldenberg (米国)

Oliver Grosz and Karen Grosz (米国)
Po-Yen and Hsiu-Mei Horng (台湾)
Jackson S.L. and Juliet Hsieh (台湾)
Suresh and Usha Jain (インド)
Warren Norman Campbell Knox (オーストラリア)
Belvai Vinayak and Radha V. Kudva (米国)
Pi, Chung-Ming and Phoebe Leung (香港)
Liao Chun-Ching and Tsai Ya-Lun (台湾)
Lioh Cheng Lim and Yea Bee Hong (マレーシア)
Surgeon Chi-Tien and Grace Liu (台湾)
Jon Luckstead (米国)

Nicolas and Annie Lynn (台湾)
丸尾研一・正子 (日本)
Aziz Memon and Samina Aziz (パキスタン)
Harish C. Neupane and Mamata Neupane (ネパール)
大室 暁・和代 (日本)
Mary Lynn Pelican (米国)
坂本精志・春代 (日本)
Robert S. and Ann D. Scott (カナダ)
Robert P. Todd (米国)
Cheng-Te and Shu-Wen Tsai (台湾)
Joop and Susan Ueffing (カナダ)
Arnaud C.M.C. Verstraete (タイ)

管理委員会サークル

(250,000~499,999ドルのご寄付)
匿名 (5)
Farhan Essa Abdullah and Nadia Farhan (パキスタン)
David and Mache Ackerman (フィリピン)
Ghanshyam and Saroj Agrawal (インド)

Meekyoung-An and Byoungil-Lee (韓国)
Mir Anisuzzaman and Shereen Bon (バングラデシュ)
Baldev and Usha Arora (インド)
Augustine and Victoria Avuru (ナイジェリア)
Stephen and Beverley Beer (米国)
Hosne-Ara Begum and Ansar Ali Talukder (バングラデシュ)

Donald and Teresa Brashears (米国)
Tim and Gail Buckley (米国)
Bobong Castillo and Hyde De La Cruz (フィリピン)
Chae Gyu Am and Kim Seo Ryong (韓国)
Huang-Chia Chang and Yu-Fen Yang (台湾)
Chang, Hung-Hsi and Wei, Hui-Ying (台湾)
Jerry and Shirley Chapman (米国)
Hong Shue Chen and Ching Wen Lin (台湾)
Maun-Jen Chen and Vicky Chien Chen (台湾)
Su Ming Chen and Chiu-Yun Chen Liu (台湾)
Edgar R. Chiongbian and Cecilia Bossany Chiongbian (フィリピン)

Tien-Mu Chiu and Mei-Yuan Chang (台湾)
Kwan Jun Choi and Moeng Hee Kim (韓国)
Chu Shian-Yng Sun and Chang Kue-Chu Maggie (台湾)

Robert T.H. Chuang and Hsiao-Yi Chen (台湾)
Byron and Kay Cook (米国)
Gary L. Cook (カナダ)
Debashish Das and Charismata Budnah (インド)
Nitin and Meena Desai (インド)
Sonja Dinner (スイス)
Arthur S. and Dilma Rodrigues Dover (米国)
Nirupama and Anil Goel (インド)
Karen Greenberg and David Henseler (米国)
Deepak and Reena Gupta (インド)
Nick and Susanna Guzman (フィリピン)
Syeda Habiba and Debesh Chandra Sarkar (バングラデシュ)

John C. Hanson and Ann G. Westerman (米国)
Robert M. Hanson and JoAnne Hanson (米国)
Ramesh Hariharan and Sobha Ramesh (米国)
John S. Hathaway and Nancy E. Hathaway (米国)
Ivan R. Haynes (米国)
Charles K. Holmes, Jr. (米国)
Suzi and Bill Howe (米国)
Hsieh Chi-Wen and Hsieh Wu Li-Hua (台湾)
Hsu, Chiu-Yu (台湾)
Ching-Yen Huang and Mei-Chih Huang Yang (台湾)
Judy Huang and Ricardo Lynn (台湾)
Tzu-Yi Huang (カンボジア)
Chang Heum Hwang and Mi Joung Choi (韓国)
Britt and Per Jannersten (スウェーデン)
Dong-Hwa Kang and Young Mi Hyun (韓国)
Ki Cheol Kang and Eun Jung Lee (韓国)
Russ and Kathy Ketron (米国)
Kyung Ran Kim (韓国)
Seong Ho Hong and Chang Suk Kim (韓国)
小船井修一・雪子 (日本)
Jimmy Chih-Ming Lai and Wenny Wen-Ling Lai-Lin (台湾)
Joni Lee (台湾)
Jung Hyun Lee and Young Ran Won (韓国)
Li-Hsin Liao and Hung-Jung Chin (台湾)
Belle Lin (台湾)
Kishor and Sunita Lulla (インド)
Sara Ma (台湾)
Satish Chand and Uma Markanda (米国)

Santiago Martin and Leema Rose Martin (インド)
松本進也・章子 (日本)
三木 明・千春 (日本)
Anil and Amita Mohindru (インド)
V.R. Muthu and Malarvizhi Muthu (インド)
中谷研一・雅子 (日本)
Natesan AK and Parvathy Natesan (インド)
Everett Uy Oliván and Maryselle Uy Oliván (フィリピン)

Or Sik Ling and Or Chan Chor Luen (香港)
James L. and Rosemarie E. Pacatte (米国)
Jong Han Park and Sook Ja Choi (韓国)
Soo Boo Park and Dong Sun Han (韓国)
Park Su Mi (韓国)
Eugene J. and Margaret W. Parker (米国)
Dahyabhai S. and Angela J. Patel (米国)
Ajay Piramal and Swati Piramal (インド)
Dilip and Shalini Piramal (インド)
Gazi Mizanur Rahman (バングラデシュ)
Ravi Raman and Shobana R Ravi (インド)
Christine Rendell and Brian Carnahan (カナダ)
Benigno Naval Ricafort and Nona S. Ricafort (フィリピン)

佐藤芳郎・享子 (日本)
Kenneth M. and Lynn B. Schuppert (米国)
Anish and Swati Shah (インド)
Nirav and Devina Shah (インド)
Hae Jin Shin and Yong Kyu Shin (韓国)
Myoung Jin Shin and Kyung Hee Lee (韓国)
Jose R. Soberano III (フィリピン)
Maurie and De Stack (オーストラリア)
Raju and Vidhya Subramanian (インド)
Ed and Fran Thurmond (米国)
Chin-Hai Tu and Ting-Ying Wen (台湾)
Tracey Yvonne Vavrek and Vincent C. Vavrek (カナダ)

Kimberly S. Walden (米国)
Tom Walker (米国)
Yuan-Fu Wang and Hsiang-Chung Liu (台湾)
Bernice Webb and Hillard Hilkowitz (米国)
Doug and Sue Whinnery (米国)
Moonbong Yang (韓国)
Frank Yih and Nancy Yih (中国)
Jeff Yong and Betty Wong (ブルネイ)
Johnny Gaw Yu and Veronica Ho (フィリピン)
Jin Yun and Jungwon Mun (韓国)
Young Joung Yun and Sook Young Kim (韓国)
Hamada Zahran and Soha El Gazzar (エジプト)

アーチ・クランフ・ソサエティ 名誉サークル

Carol Lynn Goedde (米国)
寄付者: Mary Lynn Pelican
Robert L. Hall (米国)
寄付者: Chantal and Tommy Bagwell
Wei-Ting Liao (台湾)
寄付者: Liao Chun-Ching and Tsai Ya-Lun
K Vishwas Shenoy (インド)
寄付者: Belvai Vinayak and Radha V. Kudva
Mayur Sheth (インド)
寄付者: Parag and Punam Sheth
Alec Tsai (台湾)
寄付者: Cheng-Te and Shu-Wen Tsai

2020年6月30日現在

レガシー・ソサエティ会員のリスト

レガシー・ソサエティ

1,000,000ドル以上のご誓約

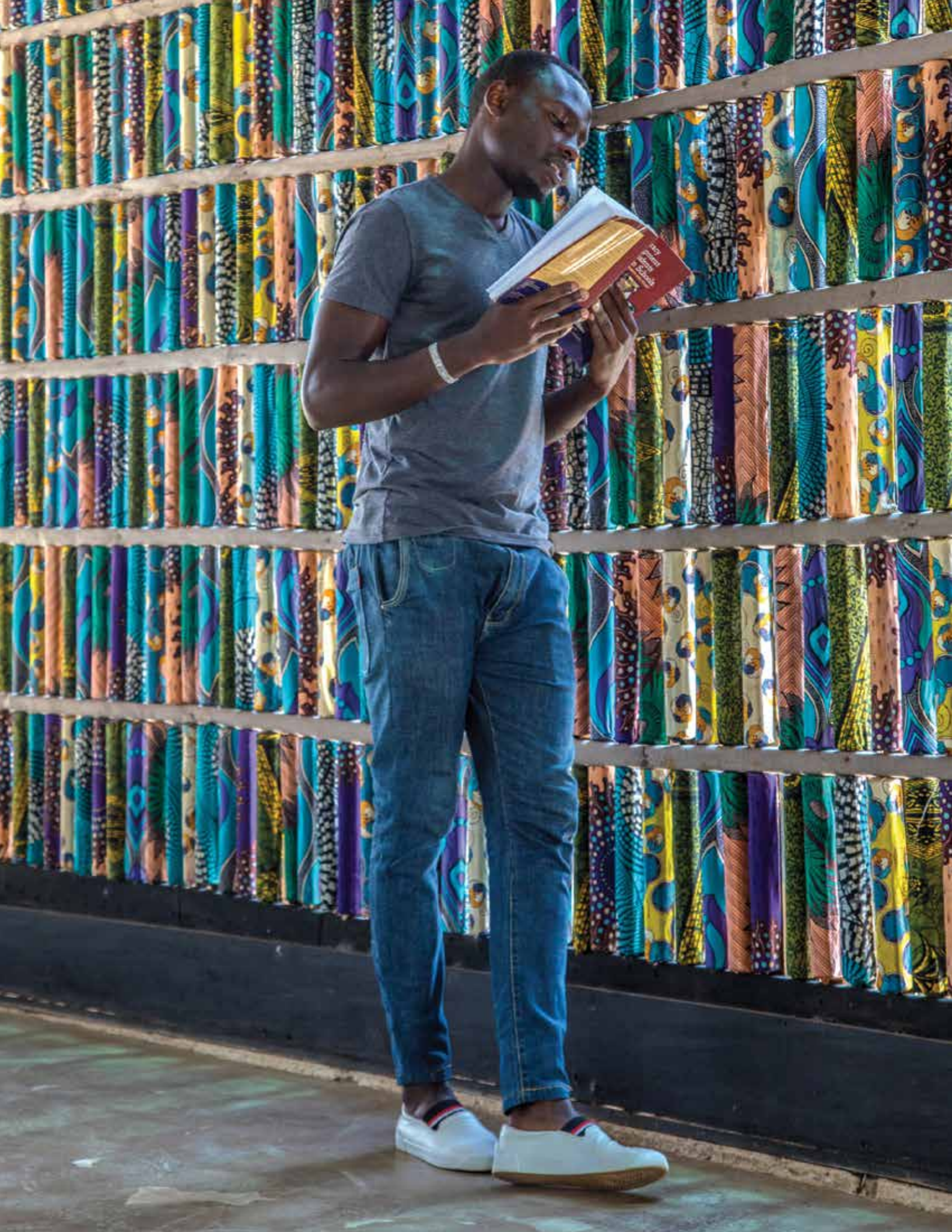
Harold and Marnee T. Alexander (米国)
David S.J. and Maureen C. Anderson (米国)
Ronald J. and Marilyn K. Bedell (米国)
Sylvia and Dennis M. Benko (米国)
Mary and Ivar Berge (米国)
Ravishankar and Jayasheela Bhooplapur (米国)
Edward and M. Patricia Blender (米国)
Glenn R. and Pamela A. Bowers (米国)
Claudia Cannady (米国)
Barry C. and M. Faye Clark (オーストラリア)
Marjorie A. Cole (米国)
Brenda and Richard Cressey (米国)
Joseph A. and Barbara J. Daily (米国)
Maureen and Ron Dickerson (英国)
Michael and Nancy Dunlap (米国)
Kenneth J. and Helen B. Englehart (米国)
Ted Faigle and Richard A. Golba (米国)
Joan Firkins and Donna Blackstock (カナダ)
Rüdiger Götz and Chrissy Klinke-Götz (ドイツ)
Joseph P. and Linda K. Grebmeier (米国)
Karen Greenberg and David Henseler (米国)
Richard and Laura Gumphier (米国)
Floyd C. and Charlotte Hale (米国)
Michael S. and Gity S. Hebel (米国)
Martha Peak and Frank G. Helman (米国)
Susan and Mark Hennenfent (米国)
Sally and David Hopkins (米国)
Jenny D. Horton (オーストラリア)
Jayne R. Hulbert and Eugene F. Duffy (米国)
Darryl and Laura Iseppi (米国)
Philip Gregory and Brenda L. Jones (米国)
Richard and Diana Kaye (米国)
Deborah S. Knowles and Susan E. Holt (米国)
Murray F. and Karey Koch (カナダ)
Floyd A. and Betty Lou Lancia (米国)
Tim and Amy Renee Lee (米国)
Marc R. and Simone P. Leeka (米国)
Rowarn A.J. Luder (オーストラリア)

ロータリー財団管理委員会は、財団への100万ドル以上の寄付を誓約した人を称えることを目的としたレガシー・ソサエティの導入を全会一致で承認しました。レガシー・ソサエティ入会者のリストには、2019年国際協議会でレガシー・ソサエティ創設の発表が行われた以前に寄付の意向を表明した方と、発表以降に誓約を行った方が含まれます。管理委員会は、個人の遺産計画にロータリーを含め、財団支援の模範を示していただいた方々に感謝いたします。

Harold B. and Anna Lukies (オーストラリア)
Susan H. and Dennis M. Lynch (米国)
Alistair and Doreen MacDonald (米国)
Elsi Alvarado and Arley C. Marley III (米国)
Ann W. Marsh (米国)
Peter and Helen Maxwell (米国)
Karen M. McDaniels (米国)
Russel S. and Susan C. Miller (米国)
Ernest R. and Sarah Brown Montagne (米国)
James B. and Phoebe Ann O'Brien (米国)
Chris and Penny Offer (カナダ)
Christine Elizabeth Grace and Ian Graham Ord (英国)

Patsy M. and Allen D. Orr, Jr. (米国)
Emory James and Mary Kathryn Patmos (米国)
Margaret V. and Edward H. Pikaart, Jr. (米国)
Monty Konrad Reed (米国)
Kay E. Resler (米国)
Adriana Rossetto (イタリア)
James W. Roxlo and Rita W. Heckrotte (米国)
Pamela S. Russell (米国)
Susan Sackett (米国)
Dan and Janet Shepherd (米国)
David R. and Isabel H. Simmer (米国)
Erwin H. and Patricia M. Strahley (米国)
Caleb Summerfelt (米国)
James Tremmel (米国)
Dena and Oakley Van Slyke (米国)
Jerry W. and Cassy Dierking Venters (米国)
Iain Wakefield (ニュージーランド)
Mary Ellen and Robert L. Warner, Jr. (米国)
Tonya L. Watson and Stephen K. Cervantes (米国)

Leslie H. and Teresa R. Whitney (米国)
Sherri L. Wilbers (米国)
Herbert A. and Janice A. Wilson (米国)
Susanne Zbinden and Richard Delongte (カナダ)
Gary and Patricia Zebrowski (米国)
匿名 (96)



ロータリーは、会員や参加者がロータリーでの経験に長期的な価値を見出すことを願っています。

積極的な参加の促進

ロータリーでは、奉仕を実践するだけでなく、個人的・職業的な成長を望む会員とプログラム参加者のニーズに応えることにも力を入れています。会員が何を求め、何を大切にしているのかを知るために会員の声を聞き出すようにしています。会員は、ファンドレイジングにおけるリーダーシップ、行事の計画、奉仕プロジェクトへの参加などを通じて、それぞれ独自のスキルを活かすことができます。ロータリーは、会員や参加者がロータリーでの経験に長期的な価値を見出すことを願っています。

1年以上前、プログラムの一つであったローターアクトの立場が高められました。これにより、より多くの研修とリーダーシップを発揮する機会がローターアクターに開かれました。ローターアクトクラブにおける成長と柔軟性も促進され、組織全体が強化されます。

ロータリーでは、世界に7つあるロータリー平和センターの一つで学ぶための奨学金を、毎年最大130名に授与しています。2019年、ウガンダのカンパラにあるマケレレ大学との提携を通じて、アフリカ初となる平和センターの設置が発表されました。アフリカ出身またはアフリカで働いたことのある平和・開発分野のリーダーは、アフリカ地域の平和に対する根本的課題を重視する大学院で、準修士号プログラムを受ける資格があります。

ロータリーでは、クラブ会員やプログラム参加者ではない人も含め、多くの人の参加が望まれます。ロータリアン、ローターアクター、ロータリー平和フェロー、学友、そして奉仕プロジェクトで自分のスキルを生かしたいと考える人は、20以上あるロータリー行動グループに参加できます。ロータリー行動グループを通じて専門知識・スキルを発揮している人は、140カ国以上で27,500人以上に上ります。また、共通の関心、職業、アイデンティティを有する人同士のつながりを求める人は、ロータリー親睦活動に参加できます。世界には90もの親睦活動グループがあり、参加者は75,000人近くに上ります。

ロータリーの重点分野で自分の専門知識を生かしてロータリアンの活動をサポートしたいという会員は、ロータリー財団専門家グループのメンバーとすることができます。専門家グループメンバーは、グローバル補助金でアドバイスを提供するための研修を受けており、末永いインパクトをもたらす補助金プロジェクトを立案できるようクラブと地区を支援します。現在、75カ国に700名以上のメンバーがいます。

キガリ（ルワンダ）の公立図書館で本を読むチャールズ・ンクアウンジーザさん。この図書館は、ロータリー財団のグローバル補助金により設立されました。

フェリックス・ハインツさんは、世界最大のメタル音楽フェスティバルの一つワッケン・オープンエアに参加した5人のロータリアンについて記事を読み、メタル音楽が好きなロータリアンとローターアクターのフェイスブックページグループを開きました。そして、ワッケン・オープンエアでロータリーの集まりを開いたところ、23名が参加。メタル音楽愛好家の親睦活動グループを作るというアイデアが生まれたのはそのときでした。

今日、この親睦活動グループには23カ国、164名のメンバーがいます。メンバーは、ロータリー

財団と、ロックとメタルの音楽ジャンルにおける若者の演奏スキル育成を支援するワッケン財団のためのファンドレイジングを行いました。また、ワッケン・オープンエアでは、ロータリアン、ローターアクター、青少年交換学生、学友を含むロータリーファミリーやロータリー関係者ではない人も招いて、ポリオ根絶のためのファンドレイジングを行ってきました。参加者は、メタル音楽への情熱を分かち合うと同時に、ロータリーの活動について理解を深めています。



ロックでつながる

ババリア・インターナショナル・ロータリーEクラブ(ドイツ)のフェリックス・ハインツさんは、メタル音楽の愛好家です。長年、ハインツさんはロータリーとメタル音楽への情熱の間につながりが見出せませんでした。これはロータリー青少年交換学生やローターアクターだったことではなく最近のことで、インスピレーションも途絶えたように感じました。

映画制作を通じた平和構築

西倉めぐみさんは、2006-08年度ロータリー平和フェローとして米国から日本に戻ったとき、東京生まれであるにもかかわらず、外国人として扱われることがよくありました。日本人の父とアメリカ人の母をもつ彼女は、アイデンティティについて質問されることも度々でした。



国際基督教大学での平和フェローシップを通じて、西倉めぐみさんは「私たち」対「彼ら」という対立的な考え方について深く学び、それが争いの根源的な要素の一つだと理解しました。そこで彼女は、より平和な世界というビジョンを描くため、映画制作という手段を使いました。

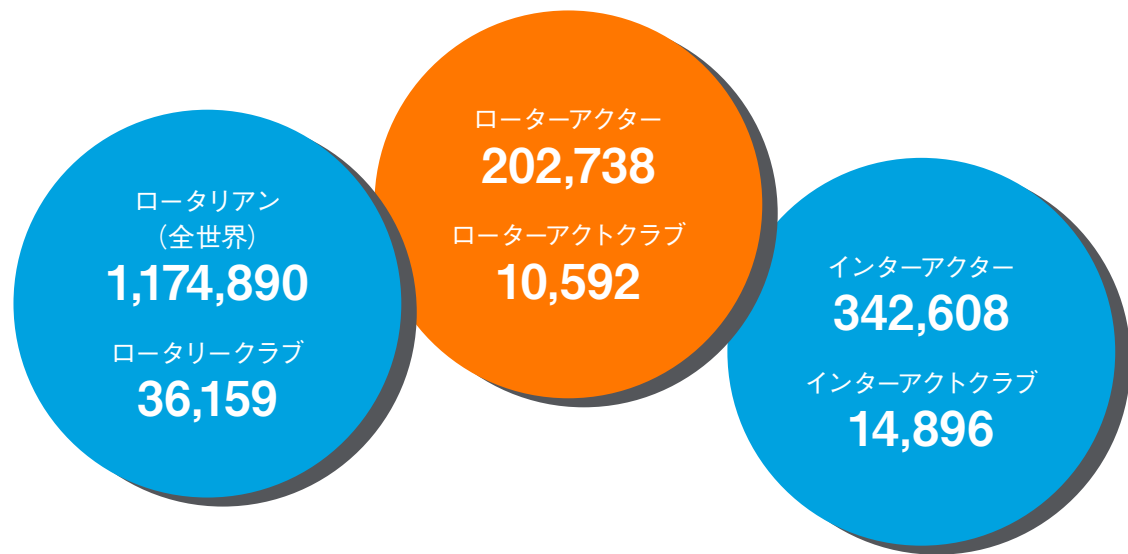
西倉さんは、映画『ハーフ』の制作に3年をかけ、日本に暮らすハーフの人たちの経験をドキュメンタリーに仕上げました。同映画は日本国内の5つの主要都市で公開され、大学の授業で幅広く取り上げられました。西倉さんはまた、戦争花嫁を題材にした映画と、第二次世界大

戦中に抑留された家族の歴史をたどる若い日系アメリカ人活動家を題材にした映画を制作しました。現在、日系であるために第二次世界大戦中にツアー参加を禁止されたアメリカ初のバレエダンサー、大里園に関するドキュメンタリーを手がけています。

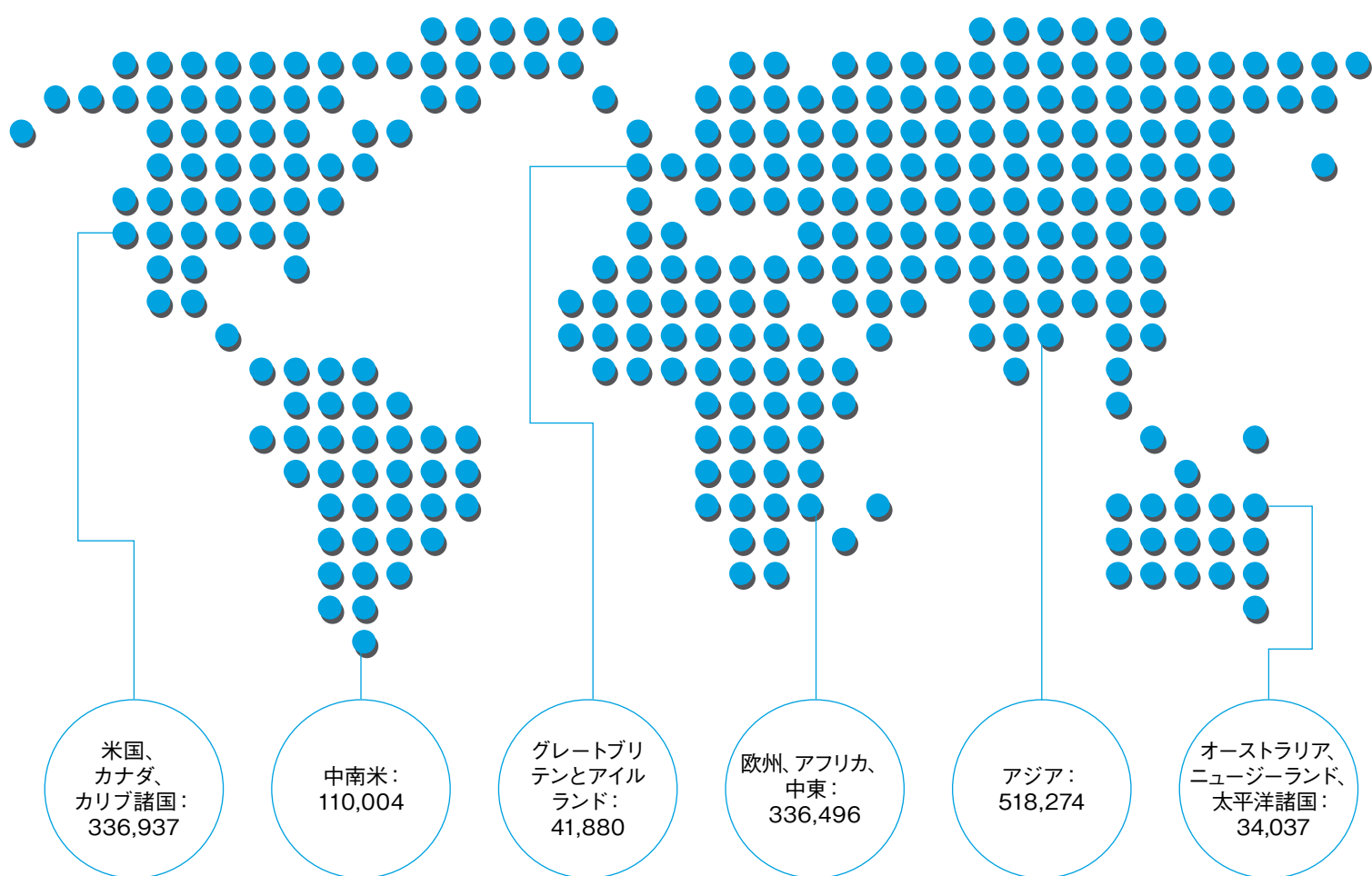
西倉さんは、ロータリー平和フェローシップを通じて、平和に対する理解を深めることができました。彼女の映画は、より公正な世界を実現するために必要とされることについての対話を促すものです。

会員増強

インパクトは、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指す会員によってもたらされます。



地域別の会員数*



#RotaryResponds
(ロータリーによる対応)

65%

のクラブが新型
コロナウイルス関連
プロジェクトに参加



72%

のロータリークラブが
従来型からバーチャル
式の例会に移行

2200 万米ドル

以上の補助金を新型
コロナウイルスに関連の
プロジェクトに投入



ロータリーとそのパートナー団体は、数十年にわたってポリオを阻止してきた経験に基づいて、新型コロナウイルスから地域社会を守る重要な役割を果たしました。

適応し、克服する

新型コロナウイルスの世界的流行の中、ロータリーの適応力は高まりました。直接集まる例会にはリスクが伴うため、多くのクラブがオンラインで行う例会に移行しました。会員は、つながりを築く新しい方法を見つけ、Eクラブからバーチャル会合のヒントを学び、オンラインで保健専門家やその他のゲストを例会に招いています。一部のクラブでは出席率が向上しました。

世界的な保健の危機においても、地域社会で奉仕するクラブの力が弱まることはありませんでした。ロータリークラブは、自宅から離れることができない住民に食料を届け、防護マスクやフェイスシールドを作り、資金を募って病院、学校、高齢者施設に物資を寄贈しました。

エボラ、黄熱病、鳥インフルエンザの流行に対応してきたように、ロータリーとそのパートナー団体は、数十年にわたってポリオを阻止してきた経験に基づいて、新型コロナウイルスから地域社会を守る重要な役割を果たしました。ポリオ根絶がロータリーの主要な目的ですが、私たちには市民を守り、命を救う道徳的義務があります。数千人の保健従事者に、研究所と監視システムの大規模ネットワークを備えたGPEI（世界ポリオ根絶推進活動）を通じて、医療インフラが整っていない国々での新型コロナ対策にポリオのリソースを活用したのはそのためです。

2020年、ロータリー最大の行事である国際大会はホノルル（米国ハワイ州）で開催される予定でしたが、出席者とハワイ住民の健康リスクを考慮し、中止となりました。そこでロータリーは、バーチャル形式での国際大会の開催へと焦点を移しました。7日間にわたり、6万人以上の参加者がさまざまな基調講演を聞きました。また、大会プログラムは7月にも延長され、数十回の分科会が行われました。ロータリーは適応力を発揮し、これまで以上に多くの会員が参加できる方法を見出しました。

新型コロナウイルスの世界的流行の中、ブラジルのボア・ビスタ・カカリ・ロータリークラブ会員は、地元にあるベネズエラ難民の避難所に漂白剤を提供しました。この漂白剤は、学校、避難所、その他施設の消毒に使用されます。このプロジェクトは、UNICEF（国連児童基金）とADRA International（ベネズエラ難民を支援する政府主導プロジェクトに参加）とのパートナーシップを通じて実現したものです。



この年のノックス・アートショーでは、ロウビル-リスターフィールド・ロータリークラブとベイズウォーター・ロータリークラブが主催者となりました。このイベントでは通常、会場でのアートギャラリーの設置と、オンラインでのアート公開という二つの要素が含まれます。しかし、ギャラリーの設置は不可能となったため、アートショー全体をバーチャル形式で開催することを決定。アーティストは作品のデジタル版を提供し、審査員もオンラインで作品を審査することに同意しました。また、通常は2日間で行うイベントを2週間にわたって開催しました。

300人を超えるアーティストが参加し、通常の5倍となる5,100人以上がオンラインギャラリーを閲覧しました。オリジナルの作品とデジタル版の両方がオンラインで販売され、収益は地元の慈善団体とポリオ根絶活動に寄付されました。

オンラインであれば地理的な制限がないため、世界中から講演者を招待し、社会経済的に弱い立場にある人びとも参加を呼びかけました。ロータリークラブは、課題に直面したときに機会を見出します。



困難の中に機会を見つける

ソーシャルディスタンス（人との物理的距離を空けること）の規則がオーストラリアで施行されたとき、メルボルンのロウビル-リスターフィールド・ロータリークラブは直ちに従来型の例会を取りやめ、バーチャル会合へと移行しました。しかし、毎年恒例のアートショーとファンドレイジングという重要な活動は断念できませんでした。

命を救うための新たな計画

新型コロナウイルスの流行による影響は高齢者ホームに急速に拡大し、多くの居住者が命を落としています。ブラジル・サンパウロのピラシカバ市では、サンパウロ・ジャルディム・ダス・バンデイラス・アルト・デ・ピネイロス・ロータリークラブは、ウイルス拡大を抑え、命を救うために、直ちに検査方法を変更する必要があると考えました。



新型コロナウイルスの発生当初は、症状を示した人のみを検査対象としていましたが、そのことが高齢者ホームで深刻な問題を引き起こしました。ホームでは人との距離を保つことが困難であることに加え、介護者が部屋から部屋へと移動するため、ウイルスが無秩序に広がったのです。

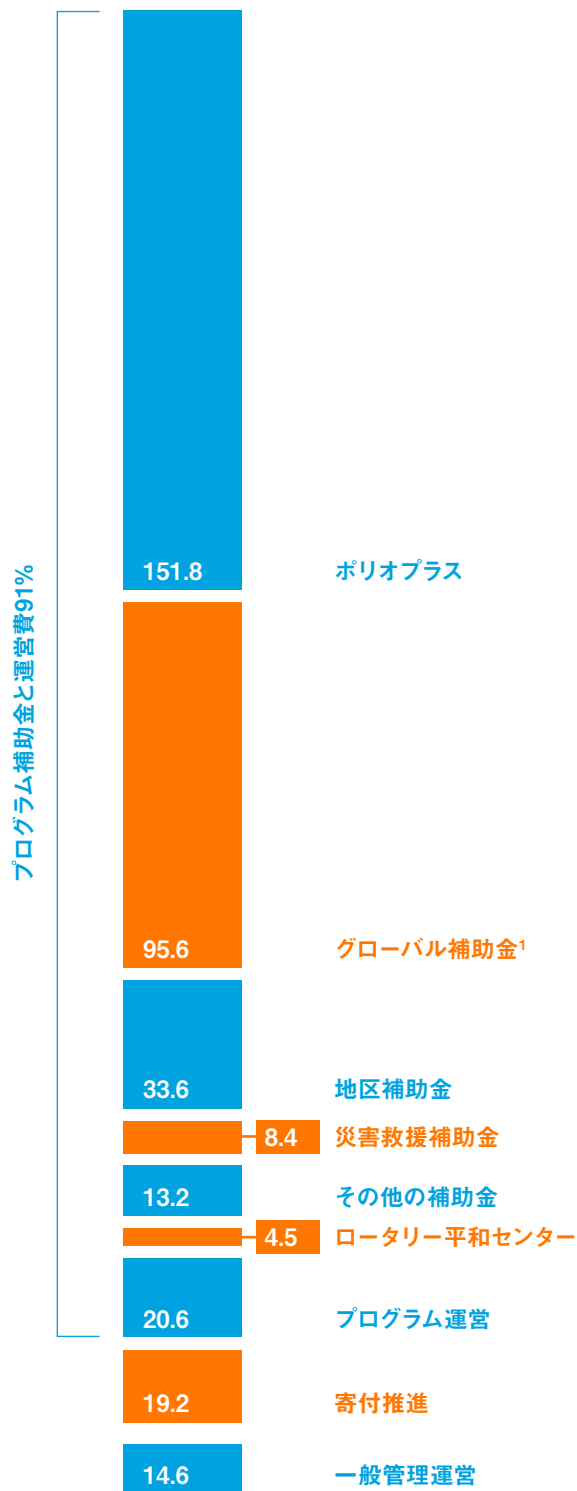
これを変えるため、サンパウロ・ジャルディム・ダス・バンデイラス・アルト・デ・ピネイロス・ロータリークラブはブラジル国内にある1,000カ所の高齢者ホームの入居者と従業員を検査する計画を立てました。「コロナゼロ」と呼ばれるこの

プロジェクトで、ピラシカバの一つのホームから活動を開始した結果、70名以上の従業員・入居者が陽性であることが判明。さらなる感染を阻止するための隔離が行われました。

この野心的な新型コロナウイルス検査プログラムでカギとなったのは、ブラジル全土のロータリークラブのネットワーク、政府や保健団体とのパートナーシップ、そしてファンドレイジングでした。この計画には、必要に応じて再検査するための戦略と、適切な判断を下すことを目的としたブラジル各地の高齢者ホームでの感染率を記録する戦略も含まれていました。

財務

ロータリー財団の支出：3億6200万ドル



ほぼすべての国で活動するロータリーは、慎重に資金管理を行っています。

国際ロータリー 収支報告

2019会計年度と2020会計年度（6月期）（単位：千米ドル）

| 会計年度累計 | 2019年6月 | 2020年6月 |
|-------------|------------------|------------------|
| 収入 | | |
| 会費 | \$77,713 | \$82,205 |
| 投資純益 | 2,092 | 3,135 |
| 支援業務とその他の活動 | 33,404 | 19,765 |
| 収入合計 | \$113,209 | \$105,105 |
| 支出 | | |
| 運営費 | \$79,213 | \$79,095 |
| 支援業務とその他の活動 | 26,944 | 18,326 |
| 戦略的準備金 | 667 | 1,352 |
| 支出合計 | \$106,824 | \$98,773 |
| 為替差損 | \$(617) | \$(2,432) |
| 純資産の増加 | \$5,768 | \$3,900 |
| 純資産（期首） | \$140,096 | \$145,864 |
| 純資産（期末） | \$145,864 | \$149,764 |

ロータリー財団 収支報告

2019会計年度と2020会計年度（6月期）（単位：千米ドル）

| 会計年度累計 | 2019年6月 | 2020年6月 |
|-----------------|------------------|------------------|
| 収入 | | |
| 寄付 ² | \$321,901 | \$338,751 |
| 投資純益 | 37,975 | 4,458 |
| 補助金とその他の活動 | 640 | (343) |
| 収入合計 | \$360,516 | \$342,866 |
| 支出 | | |
| プログラム補助金 | \$281,091 | \$307,090 |
| プログラム運営費 | 20,275 | 20,581 |
| 寄付推進 | 19,049 | 19,265 |
| 一般管理運営 | 14,790 | 14,597 |
| 支出合計 | \$335,205 | \$361,533 |
| 為替差損 | \$(661) | \$(2,651) |
| 誓約未収入のための予備費 | \$(1,673) | \$(2,375) |
| 純資産の増減 | \$22,977 | \$(23,693) |
| 純資産（期首） | \$1,127,298 | \$1,150,275 |
| 純資産（期末） | \$1,150,275 | \$1,126,582 |

¹ 返金その他調整後

² 新たな誓約5280万ドル、およびポリオプラス基金への繰入金1700万ドルは含まれない